

生駒市男女共同参画行動計画（第4次）策定時アンケート及びいこま考座グループワーク意見

分野	男女共同参画各アンケート調査	いこま考座グループワークでの意見
広報啓発	<p>【市民】</p> <p>「生駒市人権擁護に関する条例」の認知度が低い。</p> <p>【中学生】</p> <p>社会的な活動や職場に関する施策の認知度が低い。</p>	<p>【周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS、催事、民間との協力による多様な情報発信。 ・ 市長のあいさつや横断幕等、露出度を高める工夫。 ・ 「推し活」のような親しみやすいグッズ配布やマスコット作成。
ハラスメント	<p>【市民】</p> <p>ハラスメント経験者が多く（50.9%）、特に 30～40 代で顕著。経験しても「黙って我慢した」（41.2%）が多く、相談窓口の周知不足が課題。</p>	<p>【市が取り組むべき優先課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パワーハラスメント対策。 ・ 子育て中の母親に対する職場での差別対策。
働き方 両立支援	<p>【市民】</p> <p>「夫婦共働きが大変」という声や、保育サービスの充実を求める意見が多い。</p> <p>【事業所】</p> <p>育児休業からの復職支援や代替要員の確保が課題。</p> <p>【職員】</p> <p>女性は「家庭生活と両立しづらい」という理由で昇進を希望しない傾向が顕著。</p>	<p>【市が取り組むべき優先課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て中の母親に対する職場での差別。 <p>【私たちができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内の役割分担に関する個人の意識改革。 ・ 人権教育の推進。

分野	男女共同参画各アンケート調査	いこま考座グループワークでの意見
多様性 固定観念	<p>【市民】</p> <p>「性的マイノリティ」に関する問題が身近な問題として認識されつつある。</p> <p>【中学生】</p> <p>性別による「〇〇するべき」という固定観念を経験した生徒が2割いる。「男女が協力して家事・子育て」が理想だが、現実には女性に偏っている。</p>	<p>【市が取り組むべき優先課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる多様性を認める施策。 ・外国籍市民の待遇・差別対策。 <p>【私たちができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値観を変える人権教育。 ・言葉の壁を取り除く努力。
人権教育	<p>【市民】</p> <p>「いじめゼロ宣言」や「包括的性教育」の導入など、学校教育への要望が多数。</p> <p>【中学生】</p> <p>学校教育を受けた若年層は、他の世代より法律や条例の認知度が高い。</p>	<p>【私たちができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育での啓発。 ・市民憲章の周知。 ・「人権教育」の推進。

※いこま考座でのグループワークテーマ

- 1 生駒市が優先して取り組まなければならない人権問題はどのようなものでしょう？
- 2 生駒市が優先して取り組まなければならない人権問題に対して、自分たちが出来ることはどのようなことでしょうか？
- 3 「生駒市人権擁護に関する条例」を広めるためには、どうすればよいでしょう？